

Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

April, 2025 No.148

神はすべてを時に適って麗しく造り、
永遠を人の心に与えた。

コヘレトの言葉第3章11節

18号館(マクレイ記念館)

ここに場違いな 場所はない

大学宗教主任 森島 豊



ルカによる福音書第13章6-9節

それから、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。切り倒してしまえ。なぜ、土地を無駄にしておくのか。』園丁は答えた。『ご主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。もし来年実を結べばよし、それで駄目なら、切り倒してください。』」

はじめての場所

新しい環境に入ると、その場にいることが辛いと感じることがあります。私にも、そんな経験がありました。

あれは、高校の入学式の日でした。私が通っていたのは中高一貫の私立学校です。高校生になったその日も、中学のときと同じように学校に向かいました。しかし、入学式が始まると、私は早く家に帰りたくて仕方ありませんでした。なぜなら、私だけが間違えて中学校の制服を着てきてしまったからです。会場の中で、私だけが明らかに浮いていました。「早くこの場から去りたい」。

まあ、これは単なる私のうっかりミスですが、その学校に転校してきた中学3年生のときは、もっと辛い経験を何度もしました。田舎から都会の学校へ転校した私は、周囲の生徒たちと住む世界や価値観がまるで違い、なかなか馴染めませんでした。

まず、みんなの会話についていけませんでした。私が住んでいた田舎町と都会では生活の感覚が異なり、努力ではどうにもならない世界の違いがあることを突きつけられたのです。自分が惨めで、情けなくて、悔しくて、何度も「私はここにいてもいいのだろうか？ここは私には場違いなのではないか」と自問しました。そんな私を支えてくれたのが、ある聖書の物語でした。

イチジクの木

ルカによる福音書の13章に、切り倒されそうになっているイチジクの木が登場します。3年間も実を結んでいないのです。このイチジクの木がなぜ実をつけなかったのか、その理由は書かれてありません。しかし、もしかすると植えられた場所が適していなかったのではないかと思います。なぜなら、このイチジクの木はぶどう園に植えられていたのです。本来、ぶどうを育てる場所に、イチジクの木が植えられていたのです。どう考えても場違いだったのではないのでしょうか。もし、このイチジクの木に意思があったとしたら、きっこう思ったことでしょうか。「どうして自分はここにいるのだろうか？」。

そんなふうに思うのは、この木だけではありません。結果を出せない場所にいると、容赦ない言葉が飛び交います。「切り倒せ」「邪魔だ」「場所が勿体無い」。当然のことです。生産性のないものは、利益を減らすだけの存在だからです。しかし、その木を世話してきた園丁は言いました。「今年もこのままにしておいてください。私が面会見ます。木の周りを掘り、肥やしを施します。だから、もう一年だけ、このままにしておいてください」。

あなたにしか咲かすことができない花

私は、転校先の学校で心が折れそうになっていたとき、決して私を見捨てなかった先生がいました。自分ではもう諦めていたのに、その先生は最後まで寄り添い、励ましてくださいました。「あなたの経験は面白い。あなたはあなたのままでいい」そう教えてくれた先生がいたのです。その言葉に支えられ、私はようやく自分の花を咲かせる勇氣を持つことができました。「自分にしか実らせることのできないものを、堂々と実らせていい」そう教わりました。さらに、その実りは自分だけでなく、周囲の人をも喜ばせることができるということにも気づきました。そのとき初めて、私はこの場所にいる意味があるのだと実感できたのです。

青山学院に入学し、周りについていけないと感じることもあるかもしれません。自分だけが違うと感じて、惨めな思いをすることももあるかもしれません。でも、大丈夫です。あなたは一人ではありません。神様が、いつもあなたと共におられます。そのお方は、決してあなたを見捨てることはありません。必ずあなたを立派に育ててくださいます。だから、安心してください。青山学院には、「場違い」な場所はありません。あなたは、ここにいていいのです。神様があなたをこの場所に置いてくださったのです。さあ、あなたの花を咲かせましょう！

ようこそ青山学院へ

新たな出会いと発見に満ちた学院生活。
新しい仲間に歓迎のメッセージを送ります。

入園するあなたへ

幼稚園教諭 迫田 敏幸



ご入園、おめでとうございます。あなたがこの幼稚園にやってくることを、先生たちや年中組、年長組の方たちが楽しみに待っていました。この幼稚園には積木があります。絵の具もあります。工作もたくさんできますよ。おうちごっこやお店屋さんごっこもできますよ。大きな砂場やいっぱい走れる広いお庭もあります。美しいお花も咲いていますよ。さあ、何をして遊びましょうか。

やりたいなと思うことを一緒に楽しみましょうね。

あなたのことが大好きで、あなたが嬉しい時に一緒に喜び、悲しい時にはその気持ちを一番に分かってくださるお方がイエスさまです。イエスさまはいつだってあなたと一緒にいてくださいます。あなたを愛しているからです。そんなイエスさまと一緒に歩む幼稚園が青山学院幼稚園です。保育者は毎朝、子どもたちが登園してくる前に礼拝をささげています。賛美し聖書の御言葉を聞き、祈ります。子どもたちも、ご家庭の方々も、誰もが等しく神さまに愛されている、神さまの子ども。共に祈り、神さまの愛の中で3年間を過ごしていきます。

新年少保護者の皆さまへ

幼稚園保護者会会長 井上 豊子

青山学院幼稚園へのご入園、誠におめでとうございます。保護者会を代表し、心より歓迎申し上げます。初めて幼稚園の門をくぐった日のことを、昨日の事のように思い出します。不安と期待の中で送り出したあの日から、子どもと共に私も多くの学びと経験をさせて頂きました。

子ども達は、日々の礼拝を通じて自分を愛し、守り、導いて下さる神様との信頼を築いています。先生方の大きな愛によって、自分自身がかけがえのない存在であることを知り、自信を持って生きていく姿を感じさせてくれます。

ある日息子が、亡くなった祖母を思い幼稚園で十字架を作って帰ってきました。神様の存在を信じ、祖母を悼む優しい気持ちが育まれていることに感謝しました。幼稚園では何をやりたいか、誰と遊びたいか、自分で自由に考えて過ごします。どんなことが起きようとも、先生方が一人一人の成長を理解しながら、受け止め、見守り導いて下さいます。

親子で手をつなぎ歩むかけがえのない日々を大切にしながら、皆さまと楽しく園生活を過ごせることを楽しみにしています。



出会い

初等部教諭 小林 知諭



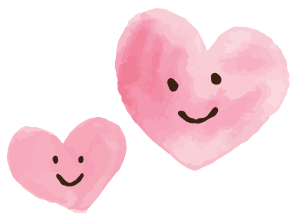
1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

初等部では、人との出会いを大切にしています。6年間を通して、いろいろな方との出会いを大切にしてほしいと思います。

神様との出会いは、みなさんの心を豊かにし、日々の生活に安心感を与えてくれます。毎日の礼拝では、神様に感謝の気持ちを伝えたり、自分の気持ちを整理したりする時間を持つことができます。神様はいつもみなさんを見守ってくださっています。困ったことがあったら、神様に相談してみてください。

先生やお友だち、お兄さんお姉さんとの出会いもあります。みなさんが困ったとき、周りの人たちが助けてくれます。そうした助け合いの中で、みなさんは成長し、素敵な思い出をたくさん作ることができるでしょう。

これからの6年間、素晴らしい出会いと経験がみなさんを待っています。どうか、その一つ一つを大切に、楽しんでください。これからの学校生活が、みなさんにとって素晴らしいものになりますようにお祈りしています。





初等部 2年 山田 陵太郎

かみさまに見まられる たのしいまい日

ぼくはしょうぶにかよえてうれしいです。なぜかという、ともだちがいっぱいできてたのしいまい日をすごせるからです。ともだちとおにごっこをしたり、こまをまわしたりしていると、たのしくなります。きゅうしょくがおいしいことや、ぎょうじがおおいところも好きです。きゅうしょくでは、6年生や2年生のパートナーさんがじゅんぴやかたづけを手つだってくれます。なかよしキャンプではかみさまのつくった森の中へたんけんにいき、ささぶねをつくりました。

しょうぶではまい日れいはいをします。まい日れいはいをして、まい日さんびかをうたうのは、すごいことです。なぜなら、かみさまにこころをむけられるからです。ぼくのすきなさんびかは「いのってごらん、わかるから」です。このうたはげん気になるリズムで、うたうたびにパワーをもらいます。

こまったときには、ぼくたちがたすけてあげるので、あんしんして学校にかよってください。入学おめでとうございます。



中部部教諭 鈴木 知明

平和な社会に 貢献する



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんと過ごす中部部での生活を楽しみに待っています。ここでは、中部部での生活を迎えるにあたり意識してほしい言葉を紹介します。それは「平和な社会に貢献する」です。これは中部部の教育理念から抜粋したものです。

壮大なテーマですが、学校生活に置き換えて考えてみてください。学校は、人と人の関わり合いで成り立っており、社会の縮図とも言われます。そして学校という社会における「平和」とは、皆が安心して過ごせる環境を指しています。つまり安心して過ごせる学校の一員として活動することが、将来的には平和な社会に貢献するための土台になると考えられます。

安心して過ごせる学校にするために何をすれば良いかと考えると、人に対して思いやりを持つことや、互いを理解する、などいくつもの候補があがると思います。すべてを実行するのは難しいかもしれませんが、意識し続けることが理解や行動につながると考えています。

79期が平和な社会に貢献する集団として成長することを期待しています。

中等部3年 野原 寿真

あっという間の中等部生活



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。皆さんを中等部にお迎えできることを、私たち在校生一同、心から嬉しく思います。

3年生になったばかりの僕が皆さんに伝えたいのは、時間はあっという間に過ぎてしまうということです。中等部では運動会、中等部祭など楽しいことがたくさん待っています。また、クラブ活動は中等部生活に占める割合が大きいと思います。2年前は見学から入部までの期間が短いと思った記憶があります。よく考えて自分に合ったクラブ・同好会を選んでください。僕が所属する男子テニス部も新入部員をお待ちしています。

また、小学生の頃より自由に自分で判断する機会が増えると思います。それと引き換えに自分で考え、行動することが大切になります。課題や

勉強は大変だと思いますが、やったことも、やらなかったことも全て自分に返ってくるので、それをやり甲斐だと思いい頑張^{がんば}って欲しいです。積極的に中等部生活を楽しんでください。皆さんにお会いできることを心待ちにしています。



善き力に 囲まれて

高等部教諭 吉田 太一



新入生のみなさん、ご入学
おめでとうございます！高等部へ
ようこそ！！

ドイツの神学者でナチスに対抗

した、ディートリヒ・ボンヘッファーは獄中でこのような詩を残しています。

「善き力に囲まれて／自信をもって来たるべき時を待とう／夜も朝も神はい
つも我らとともにいる／新しい日ごとに確実に」（「善き力に囲まれて」AI翻訳
の力を借りた私訳）

昨年の4月、私は社会人という立場に初めてなり、高等部に入りました。
時には大変なことや悩むこともありましたが、その時にはいつも私を支えて
くれる生徒のみなさんや同僚の先生方がいました。そうです、神様の愛に
私は守られていたのです。

新入生の皆さんも、これから楽しくうまくいくこともあれば、時にはうまくい
わずに悩むこともあります。しかし、すべては神様のご計画であり、その悩み、
嘆きの内にも神様は愛をもってあなたを支えてくださいます。そのことを忘れ
ずに、自信をもって、高等部での日々を過ごしてください。みなさんの高等部
でのご活躍をお祈りしています。

高等部3年 辻本 美波

素敵な仲間と共に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活への期待と不安で緊張している方も多いと思います。高等部には自分の視野を広げたり知見を深めたりできる機会が沢山あるので失敗を恐れず様々なことに挑戦してみてください。

私の大切にしている聖書箇所の一つに「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される。」(箴言27:17 新共同訳)というものがあります。私もこの高等部で素敵な友達や部活の仲間に恵まれました。本音を言い合えたり背中を押してくれたりする友人や、相談すると自分にはなかった視点や考え方を教えてくれる部員たちに日々刺激され、助けられたことで2年前の自分より成長できているのではと思っています。皆さんにも新しいクラスや部活など沢山の出会いがあることでしょう。そこでできた友人や仲間を大切に、切磋琢磨し合うことできっと数年後には今の自分とは違う成長した自分になっているはずです。皆さんの高等部での生活も喜びに溢れた素敵なものになりますようお願いしています。



大学ライフハック：失敗からのリカバリー力

社会情報学部教授 南部 和香

高校と大学の大きな違いといえば、スケジュールの自由度ですよね。いつ大学へ行き、どの講義を取るのか、大学以外の時間をどう使うのか、自分で決めることが増えます。自由を謳歌するキラキラ学生もいれば、自由であることに不安を感じる人もいるでしょう。間違った選択はしたくないし、1人だけ浮いてしまうのも嫌ですよね。失敗したら終わりだと思うと選ぶことが怖くなります。でももし「いいな」と思うことがあったなら、考え過ぎず挑戦してみてください。失敗を恐れて行動しない損失はとても大きいです。経験の機会を失うだけでなく、失敗からリカバリーする術も学べないのですから。

失敗からのリカバリーこそ大切な成功体験。きっと逞しく生きていく力になるでしょう。わかってはいるけど...という場合は、チャペルに行って神様に背中を押してもらいましょう。神様はいつでもあなたを見守り寄り添ってくれます。

4年後、皆さん一人一人が自信を持って新たな道に進んでいきますように。一步を踏み出す勇気を持てるよう心から応援しています。



恵みあふれる この場所で

教育人間科学部 4年

山田 みのり



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。きっとそれぞれが様々な思いを抱きながら、大学生活をスタートさせたことと思います。これからの学生生活は、皆さん次第でとても密度の濃い、特別な4年間となるはずです。何事においても、少し勇気を出して挑戦し、自ら積極的に動いてみてください。そうして求め続けていれば、それに応えてくれる人と環境が、この青山学院には確かにあります。もし疲れたり、道に迷ったりして、上手く前に進めないと思った時は、毎朝の礼拝に足を運んでみてください。一度立ち止まり、心を落ち着けて自分を見つめ直す時間が、皆さんが再び歩き出す足がかりとなるはずです。

「ところが主は、『私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ』と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」(Ⅱコリント12:9)

皆さんが、青山学院の礎である神様のもとで力を得、本当の強さを携えて歩み続けられることを、心よりお祈りしております。

新入生に おすすめする1冊

今回は幼稚園から大学の方々に、おすすめの絵本・書籍を紹介していただきました。ぜひお手にとってみてください。

かみさまとこども

作：金川 幸子、サンパウロ出版、1976年発行

幼稚園教諭 岡林 亜季



ある夜のこと。トマスとアンナの兄妹は「かみさまに あいたいな」と思い立ち、家を抜け出して神さまを探しに出かけます。二人は夜空を照らす月や大空を羽ばたく鳥、背中を預けられる大きな木など、さまざまなものに出会いながら「あなたは かみさま？」とたずねていきます。月や鳥、木などは私たちが日常でも目にするものですが、読み手として二人の冒険に付いていくと新たな心でそれらと出会えます。優しい挿絵と素朴なやりとりの中から一つひとつの存在や営みの尊さを感じて、世界がより愛おしくなります。



この絵本は1976年に初版が発行されているのですが、キリスト教保育が大切にしていることは半世紀前も今も変わっていないのだと感じます。これから新入園の子どもたちは、日々のお祈りや教会学校生活、園生活を通して少しずつ神さまに出会っていきます。時には神さまのつくられた目に見えるものに導かれながら、目には見えない神さまと心の目で出会っていくことでしょう。



ミリーのすてきな ぼうし

作：きたむら さとし、BL出版、2009年発行

初等部6年 木村 紗奈

1年生のみなさんご入学おめでとうございます。

私が1年生におすすめしたい本は「ミリーのすてきなぼうし」です。この本ではミリーという女の子があるぼうしを買うお話です。そのぼうしはミリーが想像したことが形になるぼうしでした。ミリーがお花を想像するとお花でいっぱいになるのです。ミリーは気づくのです。ミリーがみんなのぼうしを見たように、みんなは一人一人違うぼうしを持っているのです。このぼうしはみんなの得意なことや考え方を表しています。決してみんなが自分と同じ好きなことや考え方ではありません。授業や学校生活では自分と違う考え方のお友達に出会うかもしれません。それでも自分の考え方だけではなく、違うお友達の考え方も受け入れて柔らかく考えることが出来れば、それはもう立派な初等部生です。

1年生は新しい学校生活が始まり新しいお友達ができると思います。これからの学校生活、初等部生ならではの体験がたくさんあります。楽しんで6年間で過ごして下さい。



星言葉

作：晴佐久 昌英、女子パウロ会出版、1997年発行

中等部3年 大東 愛依



私は人を信じたい。いつだってそう思っている。でもその思いを貫くことは、本当に難しい。

もしも、心から信じている相手に裏切られたら、私の心はどうになってしまうのだろう。想像しただけで胸が苦しくなる。だから、その時のために、少しでも「疑い」の気持ちを忍ばせることもある。そんなずるさにも私は気づいている。

それでも、人が人を信じる意味とはなんだろう。司牧の晴佐久昌英氏は、著書『星言葉』の中でこう述べている。

「どれだけ疑っても、疑いからは答えは出ない。どのみち一瞬先は、だれにもわからないのだ。信じた者だけが、その一瞬先を切り開く。」

未来を信じるのか。それとも疑うのか。著者からのメッセージが聞こえてきた。きっと相手ではなく、自分自身を信じることができるかが問われているのだろう。

本書には「信じる」を含め、生きる喜びを知るヒントとなる50の動詞の意味が紹介されている。あなたも、この地球に満ちている言葉たちの尊さを感じてみてはどうだろうか。





世界はラテン語でできている

作：ラテン語さん、SBクリエイティブ出版、2024年発行

高等部3年 古瀬 かなな

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！高等部で図書委員をしている古瀬です。私が皆さんに紹介したい本は、高等部図書館にも所蔵されている「世界はラテン語でできている」です。なぜラテン語？と思う方もいるかと思いますが、ラテン語は意外と身近な存在です。たとえば、パッションフルーツ(トケイソウ)の"passion"は「情熱」という意味がまず思い浮かびますが、元はラテン語で「なにかを受ける」という意味があり、そこから「受難」と「情熱」という2つの意味が生まれました。パッションフルーツは「情熱の花」ではなく、花の形をキリストの「受難」の姿に見立てた名前なのです。このことをこの本で知った時、言葉の奥深さに感動しました。ラテン語に限らず、ものや言葉の意味に興味を持ったり、面白いと感じたりすることは、成績には関係ないかもしれませんがとても楽しいことです。新入生の皆さんも、何か気になることや楽しいことがあったら好奇心を持って(図書館なども活用して)ぜひいろいろ調べてみてください！



置かれた場所で 咲きなさい

作: 渡辺 和子、幻冬舎出版、2012年発行

大学宗教主任・経営学部教授 高砂 民宣



「ひどく寒いぞ2.26」。1936年に起きた「二・二六事件」を、日本史の授業で語呂合わせをしながら覚えたのを思い出します。この事件は、若い青年将校たちが起こしたクーデター未遂事件でした。この日は雪が降っていて、当事の陸軍教育總監であった渡辺錠太郎氏は、娘の和子さんの目の前で銃殺されました。その時、この本の著者である渡辺和子さんは、まだ小学校に通う9歳の少女でした。

この壮絶な体験は、和子さんに深い心の傷を与えました。和子さんは18歳で洗礼を受け、クリスチャンとなります。そしてカトリック教会の修道女となり、ノートルダム清心女子大学で教鞭を執った後、理事長も務めておられます。

そうした89年に亘る劇的な人生の中から紡ぎ出された幾つもの珠玉の言葉が、この本の中には記されています。特に第4章「愛するということ」には、次のような言葉が見出されます。「父と過ごした9年、その間に一生涯分の愛情を受けた。愛情の深さと歳月は比例しない。たとえどんなに短くても、本物の愛は心を充分に満たしてくれる」。

生徒や学生だけでなく、保護者の方々にもお薦めしたい1冊です。

編集後記

今年中学3年生になる息子が、中学受験の末に入学を許された国立の中高一貫校。当初、先輩たちから「課題が多くて勉強が大変な学校だ」と聞いていましたが、実際のところ、息子は全くその「大変さ」を感じていない様子です。むしろ、部活のテニスに励んだり、好きな本を読み漁ったり、のんびり楽しい毎日を過ごしていました。勉強に忙しい学校生活という話は一体どこへ、と不思議に思うほどでした。ところが2年生の終わりにさしかかった先学期、ついにその瞬間が訪れました。初めての課題ラッシュに息子が慌てふためく姿を目にし、ようやく気づいたのです。それまでの期間は先生方が新入生を少しずつ学校生活に慣れさせるための助走期間だったのだと。

幼稚園から大学までキリスト教信仰に基づく一貫教育を行う青山学院は尚更のこと、今年も皆さん一人ひとりに寄り添いながら新入生を迎えています。この『ウェスレーホールニュース新入生号』も、そんな青山学院ならではのキリスト教教育の一端をお届けするものとして、ぜひ活用いただければ幸いです。

大学宗教主任 八木 隆之

Wesley Hall News 第148号

2025年4月10日発行

発行 青山学院宗教センター
学院宗教部長 伊藤 悟

編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865

デザイン 株式会社パットンファイヴ
印刷 株式会社スバルグラフィック

URL <https://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
MAIL agcac@aoyamagakuin.jp みなさんの感想をお聞かせください

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(マタイによる福音書 第5章 13-16 節より)